

1 小単元名 がっこうに くる みち かえる みち

2 小単元について

本小単元は、主に生活科の内容（1）学校と生活 と関わるものである。

（1）学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

という内容と深くかかわっている。

ここでは、児童が学校の施設を利用したり見学をしたり、先生や友達、学校生活を支えている人々との関わりを深めたりしながら、夢や希望をもって楽しく安心して学校生活を送ることができるようにすること、通学路で出会う施設や自然物、自分たちを温かく見守ってくれている人々がいることに関心を持ち、安全な登下校ができることを目指している。

本学級の児童は、様々な幼稚園、保育園から入学してきているため、生活経験や学習経験の違いが感じられる。中には、不安や緊張、戸惑いを感じてスムーズに学校生活をスタートできない児童もいた。しかし、二か月が経ち、様々な学校行事を経験したり、給食、清掃、当番活動などに取り組んだりする中で、学校生活を支える人々や友達、上級生に関わり、学校は安心できる場所であることに気付き始め、楽しく学校生活を送ろうという意欲を高めたりすることができた。また、学校探検、アサガオの栽培活動などの様々な体験活動を通して、進んで対象と関わって学ぶことの楽しさや面白さを感じつつある。

そこで、本小単元では、通学路を探検する活動を通して、通学路の様子に関心を持ち、自分たちの安全を守ってくれている人がいることに気付き、安全に気を付けて登下校しようという意欲を高めたい。また、通学路の様子から学区の良さを感じたり、公園で遊ぶ活動を通して、ルールやマナー守って遊ぶことの大切さや、様々な遊びの楽しさに気付いたりできるようにしたい。

3 小単元の目標

通学路や公園での活動を通して、自分たちの学区の様子に関心をもって、安全に登下校したり公園で楽しく遊んだりすることができる。

4 小単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価規準	○学校生活に関わる活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かる。 ○アサガオを育てる活動を通して、植物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。 ○身近な公園には、みんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどに気付いている。	○学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができる。 ○アサガオを育てる活動を通して、変化や成長の様子に関心をもって観察をしたり、世話をしたりすることができる。 ○身近な公園のよさを感じることができる。	○学校の施設や人々、通学路の様子などに関心を持ち、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとしている。 ○アサガオを育てる活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。 ○身近な公園を大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとしている。

小 単 元 に お け る 評 価 規 準	な か よ し と も だ ち と	(1) 学級の友達や上級生と交流する楽しさに気付いている。	(1) ルールを守って遊んでいる。	(1) 友達や上級生、先生と楽しく遊ぼうとしている。
	な か よ し が っ こ う と	(2) 学校の施設の様子とその役割に気付いている。 (3) 学校には、いろいろな仕事があり、みんなのために働いているひとがいることに気付いている。	(2) 学校の施設の位置や特徴を意識して、行ってみたい場所を選んでいる。 (3) 友達に何を伝えるか考え、伝えたいことを選んでいる。	(2) 学校の施設や先生をもっと知りたいという思いをもって、それらに関わろうとしている。
	な か よ し は な や や さ い と	(4) アサガオの変化や成長の様子に気付いている。 (5) 生き物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。	(4) アサガオの立場に立って関わり方を見直しながら、世話をしている。 (5) アサガオの変化や成長の様子に着目して、観察している。	(3) よりよい成長を願って、繰り返し関わろうとしている。 (4) 生き物に親しみや愛着をもったり、生命あるものとして関わったりしようとしている。
	が っ こ う に か え る み ち	(6) 通学路の様子や、安全を守っている施設や人々の存在が分かっている。 (7) 身近な公園には、みんなが使うためのルールやマナーがあることに気付いている。	(6) 通学路の様子を調べ、安全な登下校の仕方を考えている。 (7) 身近な公園のよさを感じたり働きを捉えたりしながら、それらを利用している。	(5) 通学路の様子やその安全を守っている人々の存在を感じながら、安全に登下校しようとしている。 (6) 公園での遊びに関心をもち、思いや願いをもって人や自然とかかわって遊ぼうとしている。

5 研究の視点（生活科部会研究計画より）

視点1 自校の実態を見直し、低学年の子どもの身近な「ひと もの こと」と、体全体で関わる具体的な体験や活動を通す単元開発や指導計画の工夫

○学区の特長を生かした指導計画の工夫

自宅から学校までの通学路で、信号を一度も渡らずに通学する児童や、保護者との約束で遊びに行ける公園が限られている児童がいることから、普段通っている通学路と、自宅とは反対方面の通学路を2回に分けて探検に行くこととした。普段の通学路を探検するときには、何気なく歩いていた通学路の様子に興味をもち、交通安全教室で教えてもらった標識や、おすすめしたいところなどの新たな視点で通学路を歩くことで、よいところや安全が守られていることに気付くことができると考える。別のコースを歩くときには、2つのコースで見つけたものを見比べることで、同じ学区内でも通学路の様子が異なることに気付いたり、どちらのコースでも見つけられたものを問い掛けることで、「横断歩道を渡ろうとすると、車が止まってくれたよ。」「スクールゾーンの標識があるよ。」などの、どの通学路も安全を守るために様々な工夫がされていることに気付いたりできるようにしたい。そして、安全に気を付けて通学路を歩いたり、ルールを守りながら公園で楽しく遊んだりできるようにしたい。小単元の終わりには、それぞれが学区のよさに気付いたり、自分たちの安全を守ってくれている人々の存在に感謝したりしながら過ごせるようになることを期待している。

○学習カードの工夫

今回の通学路探検は、「すてきポイント」と「安全ポイント」という2つの視点で行うこととした。「すてきポイント」は、通学路やその途中にある公園の「おすすめしたいところやもの」、「すてきを作ってくれている人」を想定している。「安全ポイント」は、5月に行った交通安全教室でも学んだ「止まれ」の標識や、信号などの「自分たちの安全を守るためにあるもの」や、横断歩道で旗を振りながら見守りをしてくれている保護者会の方や教職員などの「安全を守ってくれている人」を想定している。そして、学習カードがどちらのポイントのことなのか一目で見て分かるように、「すてきポイント」は黄色、「安全ポイント」は青色で色分けをする。さらに、学習カードには「ひと」なのか「もの」なのかを丸付けられるようにした。「ひと」と「もの」という視点は、学校探検の単元でも扱っていて、この二つの視点ももつことによって、自分たちの周りの「ひと」や「もの」に対して関心をもてるようにした。

また、児童の実態から、見つけたものについて文章で表現することがまだ難しい児童もいるため、絵だけをかくものと、文字も書くことができるものの二種類を用意し、それぞれが自分にあった学習カードを選んで見つけたものを書けるようにした。

視点2 子どもが「やってみたい」「できるようになりたい」という自分の思いや願いをもち、対象と進んで関わるための支援・指導の工夫

○見つけたことを伝え合う場

1回目の探検後、街コースと海コースのどちらもいる3人グループで伝え合う時間を取り、自分の通学路と比べられるようにした。コースによって通学路にあるものが異なることや、どちらのコースにも共通しているものがあることに気付けるようなグループの構成にする。その後、次回はどちらのコースを探検するか、そこで見てきたいものや、やってみたいことを考える展開にした。友達の話の聞いたり、絵や写真を見ただけでは分からないこともあるため、「押しボタン信号は、本当にボタンを押したら信号がすぐ変わるのか見たい。」のように、実際にその場所に行って確かめてみたいという思いをもったり、「第五公園には、ターザンロープがあるんだ。乗ったらどんな感じなんだろう。」など、新しく知った場所でどのように遊んでみたいかなどの願いをもったりすることができると考えた。

○掲示物の工夫

通学路探検で見つけたものや、公園での遊び方をコースやポイント、「ひと」「もの」の項目ごとに分けてまとめた模造紙を作成し、児童がいつでも友達の気付いたことを見られるようにする。その際、学習カードに番号を付け、番号の書いたシールを地図に貼ることで、どこにどのような「ひと」がいたり、「もの」があるのかが分かるようにした。そうすることで、日々の登下校の際にも、「すてきポイント」や「安全ポイント」に目を向けることができると思われる。また、探検の時間以外にも見つけたことがあれば学習カードに書いて、「ひみつのたからばこ」（提出する箱）に入れるようにする。箱に入れられた学習カードは、担任が番号を付け、模造紙に付け足すことができるようにすることで、日々学びが蓄積されていくとともに、まだ友達が見つけていないポイントを探そうとする意欲も生まれるのではないと思われる。

6 本小単元の位置づけ

月	小単元名	学習活動	() 内容	○時数	☆本小単元
4			スタートカリキュラム	ともだちと なかよし (1) ④	○自己紹介や集団ゲーム、歌などを通して、新しい友達と遊んだりする。
5			がっこうと なかよし (1) (4) (8) ⑧	○学校内を回り、興味のあるものやそこにいる人々とふれ合うことを通して、学校の様子や学校生活を支えるいろいろな人々の存在に気付く。	はなや やさいと なかよし① (7) ⑥ ○アサガオの栽培活動を通して、植物の成長に気付く。 ○アサガオの成長に合った世話を考える。
6			がっこうに くる みち かえる みち (1) (4) ⑨	○通学路探検を通して、通学路の様子や自分の安全を守ってくれている人々の存在に気付く。 ○通学路で見付けたものを友達と伝え合う。 ○施設の使い方やルールを守って公園で友達と仲良く遊ぶ。	
7			☆本小単元		はなや やさいと なかよし② (6) (7) ⑥ ○アサガオの蕾や花の観察をする。 ○植物の花や実の色を集めて遊ぶ (6) (7) ⑥
9			おもしろい あそびが いっぱい (5) (6) ③ なつは たのしい ことが いっぱい (2) (3) (4) (5) ②	○遊ぶ道具を工夫して、シャボン玉遊びや、水遊びをする。 ○夏休みにしたいことを話し合う。	
10			いきものと なかよし (5) (7) ⑨	○見つけてきた虫を飼う活動を通して、すみかや世話の仕方を考える。	
11			あきと あそぼう (3) (5) (6) ⑫	○身の回りの秋を探したり、秋の公園で遊んだりして感じたことを話し合う。 ○葉っぱや木の実で工夫して遊んだり、いろいろなものを作ったりする。	はなや やさいと なかよし③ (7) ⑦ ○アサガオの種を取ったり、つるでリースを作ったりする。
			おいでよ あきの テーマパーク (5) (6) (8) (9) ⑥	○幼稚園や保育園の子を招待して一緒に遊ぶ。	

12	ふゆと あそぼう (3) (5) (6) (8) ⑮ ○校庭や通学路にある冬を探す。 ○風車やたこ、風鈴や紙飛行機など風で動くおもちゃを作り、楽しく遊ぶ。
1	
2	かぞくは なかよし (2) (8) (9) ⑥ ○家族が笑顔になるときを見つける。 ○家族を笑顔にするために自分ができることをする。
	もうすぐ 2年生 (8) (9) ⑨ ○1年間の生活を振り返り、できるようになったことや頑張ったことを伝え合う。 ○1年生を迎える準備をする。
	はるを さがそう (5) ② ○校庭に出て春を探す。

7 小単元構想

〈児童の思いや願い〉

がっこうに くる みち かえる みち

学校に来る途中に、
コア（公民館、図書館）が
あるよ。

一丁目公園は、
広い芝生で遊べるよ。

第五公園で
ターザンロープをしたいな。

他の通学路も
見に行きたいな。

主な学習内容と活動	他教科との関連
じぶんで つうがく できるように なったよ ○通学路で見つけたことを話そう - 通学路にあるものやいる人について、途中にある公園でどのような遊びをしたことがあるのかについて話し合う。 - 通学路探検をするときに、見てくる「すてきポイント」や「安全ポイント」について知る。 《期待する姿》 「学校にくるときに、横断歩道を渡ってくるよ。」 「校長先生が、黄色い旗を持っているのを見たことがあるよ。」 「横断歩道の渡り方を、交通安全教室で教えてもらったよ。」 「一丁目公園で友達と遊んだことがあるよ。広い公園だよ。」 《手立て》 - 通学路の様子や公園を撮影した写真を用意したり、交通安全教室で学んだことを振り返ったりすることで、通学路の様子や公園について興味をもてるようにする。	〈国語〉 「わけを はなそう」 経験したことについて話型を使って気持ちとわけを話す。 「おおきく なった」 見付けたものを記録する文を書く。 〈道徳〉 「そろって いるけど」 みんなが使う場所や物を大切にしようとする心情を育てる。 〈図工〉 「みて みて あのね」 生活の中でしたことを思い浮かべながら絵に表す。

つうがくろには あんしん あんぜんが いっぱい

○2つのコースに分かれて、通学路のひみつを見つけよう

- ・「すてきポイント」と「安全ポイント」の視点をもって、通学路の様子や、出会う人々、自分たちの安全を守ってくれているものなどに気付く。
- ・見付けたものをカードに記録する。

○通学路で見付けたひみつをみんなに教えよう

- ・街コース、海コースそれぞれで見付けた「安全ポイント」を伝え合う。
- ・ポイントをもとに、安全な登下校の仕方を考える。

○通学路のひみつをもっと探しにいこう

- ・自分で選んだ通学路の探検をするとともに、見付けたものをカードに記録する。
- ・見付けたものを付け足すとともに、これからどのように登下校したいか考える。

《期待する姿》

「横断歩道があったよ。渡るときに、車が止まってくれるよ。」

「ボタンを押すと、信号が変わって渡れるようになる押しボタン信号があるよ。」

「マンションをきれいに掃除してくれている人がいるよ。」

「別のコースは、どうなっているんだろう。」

《手立て》

- ・学習カードは、児童が「すてきポイント」と「安全ポイント」のどちらであるか一目で見て分かるように色分けをする。さらに学習カードには、「街コース」と「海コース」、「ひと」と「もの」を予め書いておき、分類ができるようにする。
- ・探検のときに、写真や動画にして撮っておきたいものがある場合は、教師が撮影しておくことで、学習カードを書いたり共有の場面で活用したりできるようにする。

みんなの こうえんだね

○2つのコースに分かれて、通学路のひみつを見つけよう

- ・「すてきポイント」の視点をもって公園にあるものに気付いたり、楽しく遊んだりする。
- ・見付けたものやおすすめの遊びなどをカードに記録する。

○通学路で見付けたひみつをみんなに教えよう

- ・街コース、海コースそれぞれで見付けた「すてきポイント」を伝え

合う。 ・ポイントをもとに、公園でできる遊びや、みんなで楽しく遊べる使い方を考える。 ○通学路のひみつをもっと探しにいこう ・公園で見付けたものや考えた遊びを付け足すとともに、これからどんな遊びをしたいか考える。 《期待する姿》 「第五公園にはターザンロープがあって、遊ぶと楽しいよ。」 「長い滑り台、やってみたいな。」 「こっちの通学路にもぼくが見付けた『すてきポイント』があったよ。」 「広い芝生で鬼ごっこをしたら楽しそうだな。」	
--	--

8 小単元の流れと評価（6 h＋道徳「規則の尊重」1 h＋国語「大きくなったよ」2 hの全9時間）

小単元名	◎学習内容（時数）	・評価の視点	○手立て
できるよになつたよ じぶんでつうがく	◎通学路で見付けたものや、その途中にある公園について話し合う。通学路探検にいくために、歩くコースの計画を立てたり、見てくるポイントを確認したりする。（1）	・通学路の様子や、公園に関心をもち、話し合おうとしている。【主体】	○通学路にあるものの写真を撮って掲示することで、子どもたちの意欲を高められるようにする。
つうがくろには みんなの	◎2つのコースに分かれて、通学路探検にいき、途中の公園で遊ぶ。（2）	・通学路の動植物や自然、出会う人々、暮らしの様子などに気が付いている。【知・技】	○見付けたポイントで、写真や動画に残しておきたいと思ったものは、教員が撮影することで、絵や文章に表現しにくいことも記録できるようにする。
あんしん あんぜんが いっぱい	◎見付けた「すてきポイント」と「安全ポイント」を学習カードに記録する。（1＋常時）[国語]	・身近な公園には、みんなが使うためのルールやマナーがあることに気付いている。【知・技】	○記録する学習カードは、絵だけのものと、文章も書けるものも用意することで、自分に合った学習カードを選べるようにする。 ○探検の時間だけでなく、普段登下校をしている中で見付けたものも学習カードに記録し、「ひみつの宝箱」に入れられるようにする。

	◎それぞれのコースで見つけた「すてきポイント」と「安全ポイント」を伝え合う。(1)【本時】 ◎自分で選んだ通学路の探検し、「すてきポイント」と「安全ポイント」を確かめたり、さらに探したりする。(2) [道徳も含む] ◎見つけたポイントや、遊んだ遊びを学習カードに記録する。 (1 + 常時) [国語] ◎さらに見つけたポイントを伝え合うとともに、これからどのように登下校をしたり、公園で遊んだりしたいか考える。(1)	・通学路の様子を調べ、安全な登下校の仕方を考えている。 【思・判・表】 ・身近な公園のよさを感じたり働きを捉えたりする。 【思・判・表】 ・通学路の様子やその安全を守っている人々の存在を感じながら、安全に登下校しようとしている。 【主体】 ・身近な公園のよさを感じたり働きを捉えたりしながら、それらを利用している。 【主体】 ・通学路の様子やその安全を守っている人々の存在を感じながら、安全に登下校しようとしている。【主体】 ・公園での遊びに関心をもち、思いや願いをもって人や自然とかわって遊ぼうとしている。【主体】	○児童の言葉や絵だけでは伝わりにくい場合は、教師がギガタブで撮影しておいた写真や動画を見せることで、分かりやすくする。 ○見つけたものから、思いや願い、気を付けることなどを考えられるような問い返しする。 ○友達が見つけたものを確かめたり、やってみたいと思ったことを実践したりできるようにもう一度探検に行く。 ○友達が見つけたポイントを確認できたら、掲示してある学習カードに「あったよ」「やったよ」シールを貼るようにする。 ○一度目の探検で見つけたことが貼られた掲示物に、学習カードを付け足すことで、学びが広がり深まったりしていることを目で見分けるようにする。
--	--	--	--

9 本時の学習

(1) 本時の目標 (5/9)

通学路の様子について話し合うことで、安全な登下校の仕方や公園での遊び方を考え、学区のよさを感じることができる。

【思・判・表】

(2) 本時の展開

時配	学習活動と内容	教師の支援 (○) と評価 (☆)
5	1 通学路探検を振り返る。 ・街コースを歩いたよ。一丁目公園で鬼ごっこをしたのが楽しかったよ。	○通学路探検は、「すてきポイント」と「安全ポイント」の二つの視点が合ったことを確認する。

	・お店があったよ。 ・海コースで信号を渡ったよ。	○児童の書いた学習カードや撮った写真を提示することで、通学路の様子を思い出せるようにする。
2	2 本時のめあてを確認する。 つうがくろで みつけた ひみつを みんなに おしえよう。	
8	3 グループの友達と、見付けた「すてきポイント」と「安全ポイント」を伝え合う。 ・海コースには、押しボタン信号があったよ。 ・第五公園には、ターザンロープがあって楽しいよ。 ・信号のない横断歩道があったよ。	○伝え合ったときに、グループ内でも2つのコースを比べることができるよう、グループは街コースと海コースのどちらもがいる3人で構成する。 ○友達の話を知ったら、 「どういうこと？」 「おなじだよ。」 「なるほど！」 「㊟けたし」の合言葉を使いながら、話すことを確認する。 ○前時までにかいた学習カードを用意することで、伝えたいことを思い出せるようにする。 ○児童が伝えたいことについてのわけを話したり、新たな会話が生まれたりするような声掛けをして、単なる伝え合いで終わらないようにする。
20	4 全体に向けて、見つけた「すてきポイント」と「安全ポイント」を発表するとともに、安全な登下校の仕方や公園での遊び方について考える。 ・信号のない横断歩道があったよ。車の通る道には、「とまれ」マークがあったよ。 →車が来ないか「右左右後ろ」を見たり、止まってくれたか確認したりして渡ろう。 ・大きなすべり台があったよ。保育園の子たちも遊びに来ていたよ。 →遊具はみんなで順番を守って遊ぼう。 ・長いすべり台があるよ。 →第五公園に行ったことがないから遊んでみたいな。	○児童が書いた学習カードや、教師が撮った写真を提示することで、どのような様子なのかが分かるようにする。 ○児童が発表した「すてきポイント」と「安全ポイント」から、安全な登下校の仕方や公園での遊び方について考えられるような問いかけをする。 ○友達の発表を聞いて、思ったことも取り上げることで、思いや願いをもてるようにする。 ☆通学路の様子について話し合うことで、安全な登下校の仕方や公園での遊び方を考え、学区のよさを感じることができている。

10	5 活動を振り返ってワークシートを記入し、次時への見通しをもつ。	【思考・判断・表現】 ○振り返りは、発達段階的に文章にして表現することが難しいため、「見付けたひみつを伝えることができたか。」「友達の見付けたひみつを聞くことができたか。」「通学路のひみつを知って楽しかったか。」「次の探検でしたいことが考えられたか。」の4つの観点を3段階評価で○を付けて行う。
----	----------------------------------	---

板書計画

つうがくろで みつけた ひみつを みんなに おしえよう。	
あんぜん ぽいんと ・おうだんほどろ（しんごうが ない） くるまが とまってくれる とまれの まあくが ある →わたるとき、とまってくれたか かくにん みぎ・ひだり・みぎ・うしろ みる ・おしぼたん しんごう おすと、しんごうが あおに かわって わたれる こうつうこうえんに いく とちゅうにも あった	すてき ぽいんと ・おはなや、きのみがおちている →きれいだな、いいにおいだな ・だいごこうえん ながいすべりだい (1ちょうめ なし) →やってみたい ・ほいくえんの こたちが いた →じゅんばん まもる ・1ちょうめこうえん ひろい やきゅうできる →ひろいの いいな たのしそう

《学習カードを貼る掲示物》

模造紙を、コースやポイント、「ひと」「もの」で分け、分類できるようにした。模造紙は、パーテーションに貼って教室後方に掲示することで、いつでも見られるようにする。普段の登下校の際に見付けたことも、学習カードに書いて「ひみつの宝箱」に入れることで、教師が分類し、掲示できるようにする。

街コース		海コース	
安全ポイント	ひと	ひと	
	もの	もの	
すてきポイント	ひと	ひと	
	もの	もの	